

いわき農林水産ニュース

ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま

令和7年3月号

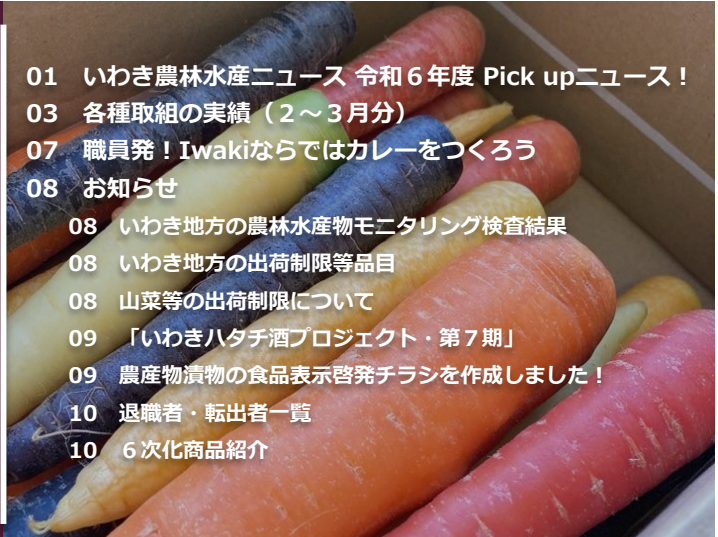
vol.241

発行日

2025/3/27

写真について
詳しくは
P 11を
チェック!

- 01 いわき農林水産ニュース 令和6年度 Pick upニュース!
- 03 各種取組の実績(2~3月分)
- 07 職員発! Iwakiならではのカレーをつくろう
- 08 お知らせ
- 08 いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果
- 08 いわき地方の出荷制限等品目
- 08 山菜等の出荷制限について
- 09 「いわき八丈酒プロジェクト・第7期」
- 09 農産物漬物の食品表示啓発チラシを作成しました!
- 10 退職者・転出者一覧
- 10 6次化商品紹介



いわき農林水産ニュース 令和6年度 Pick upニュース!

今年度のいわき農林水産ニュースもこれで最終号。そこで今回は、令和6年度を振り返る企画として、今年度掲載してきた話題をピックアップしてご紹介します。

「学ぶ、感じる、楽しむ! I like IWAKI MIWA 農林業スタディーツアー」を開催しました!(11月号掲載)

11月16日(土)から17日(日)の2日間、県内外の学生団体を対象に、いわき市三和町で1泊2日のスタディーツアーを実施しました。農業体験や地域の方との交流を通して、中山間地域の農業の魅力や課題への理解を促進するとともに、農業者と学生団体とのマッチングにより新たな関係人口を創出し、地域農業の振興につなげることを目的としています。

当日は、県内外の3大学(新潟食料農業大学、東日本国際大学、神奈川大学)から17名の学生が参加し、農業体験や、やっつき踊り鑑賞、ワークショップなどを通して、地域の方々との交流を深めました。

学生の皆さんが、ツアーで体験したことについてSNS等で発信したり、今後も三和町に足を運び、今回出会った方と関わり合っていく事を期待しています。

(企画部)



▲ 大根の収穫体験

フレッシュ農業講座を実施しました!

(10月号掲載)

9月18日(水)、県立磐城農業高等学校の1年生を対象に、JA福島さくらいわき梨共同選果場において、職業として農業への理解と関心を深めてもらい、いわき地域の将来を担う新規就農者を確保することを目的として、フレッシュ農業講座を実施しました。

はじめに日本なし農家で青年農業士に認定されている根本大我さん、JA福島さくらの園部営農指導員からそれぞれの取組について説明を受けた後、選果場内でなしの選果も体験しました。

講座後のアンケートでは、農業に対するイメージが「もうかる」「魅力がある」と回答した生徒が7割を超えるなど、職業としての農業に魅力を感じてもらうことができました。

(農業振興普及部)



▲ 根本大我さんの講話

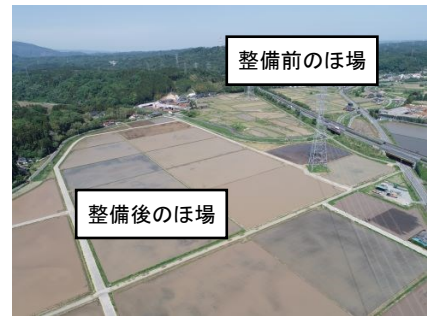
令和6年度ほ場整備工事が始まる！

(6月号掲載)

いわき管内では、ほ場整備工事が盛んに行われています。

特に今年度、山田地区(受益面積A=41.7ha)は面整備(田んぼの区画を大きくする)のエリアである約11haの工事を行っています。また、神谷地区(受益面積A=40.9ha)は、面整備の最盛期であり、今年度は約18haの工事を実施中です。

ほ場整備は、これまでの小区画の農地、狭小な農道、用排水兼用であった水路を総合的に整備し、農地の大区画化、農業用車両がすれ違える農道整備、用水と排水を分離することによる水管理の省力化など、農業を営むうえで必要な農地整備を行うものです。経営規模の拡大、労働時間の短縮、生産経費の削減などの効果を発揮して、地域の担い手への農地利用集積が進むことを目的に実施しています。今後も工事は続きますが、地元農家さんと相談しながらより良い基盤整備を進めてまいります。



▲ 山田地区 整備前・整備後

(農村整備部)

第25回民有林治山木材使用工事コンクールで県営治山工事が表彰

(12月号掲載)

治山林道工事で優れた施工技術等をもつ事業者等をたたえる令和6年度治山・林道コンクールの表彰式が東京都で行われ、当所で行った治山施設(県営)下毛地区0401工事(令和5年10月竣工)が、一般社団法人日本治山治水協会会長賞を受賞しました。

本工事は、令和元年東日本台風で崩壊したいわき市田人町南大平の山腹を復旧するため谷止工と土留工を設置したもので、コンクリート打設の際、山側の型枠に「残置式間伐材落とし込み型枠」を使用したことなどが認められ、民有林治山木材使用工事コンクール



▲ 工事完成写真

において、設計者・工事監督員である当所森林林業部森林土木課寺崎副主査が表彰されました。受注者であるアース建設株式会社の丁寧な施工により、無事故で優秀な出来映えとなり、渓流の浸食防止が図られました。当所では、今後も治山施設の整備を推進し、森林の持つ多面的機能の維持に努めてまいります。

(森林林業部)

ヒラメ種苗放流

(7月号掲載)

海の生き物は限りある資源であり、無秩序に獲るだけでは減ってしまう一方です。福島県では各地区の漁業者の協力を得て、ヒラメ種苗放流を毎年継続的に実施することにより、「つくり育てる漁業(栽培漁業)」に取り組んでいます。

また、福島県の資源管理型漁業の取組として、ヒラメは全長30cm未満の水揚げが禁止されているほか、いわき地区では自主的な取組としてさらに厳しい全長40cm未満のヒラメの水揚げを制限するなど、高い資源管理の意識をもってヒラメ資源が利用されています。



▲ 放流するヒラメ種苗

こうした地道な取組もあり、令和5年のヒラメの水揚げ量は過去最多の846トンを記録しました。「常盤もの」の代表である福島県産ヒラメを見かけた際は、ぜひご賞味ください。

(水産事務所)

いわき地方土づくりセミナーを開催

2月18日(火)

JA福島さくらいわき統括センターにおいて、JA全農福島農業技術センター技術常任参与の三浦吉則氏を講師に迎え「土づくりと、分析に基づいた施肥技術」をテーマに講演会を開催したところ、生産者約50名の参加がありました。

講演では「土づくりとは」から始まり、pH、EC、CECや塩基飽和度など、土壌分析の基本的事項や、土壌診断に基づく施肥の考え方について説明いただきました。参加者からは、土壌分析の頻度や時期、施肥の方法など多くの質問がありました。

また併せて、当所から福島県環境負荷低減事業活動実施計画認定(みどり認定)についての情報提供を行いました。

引き続き、適正施肥による生産コストの低減に向けた取組や、環境と共生する農業の取組を支援してまいります。



▲ 講演の様子

(農業振興普及部)

いわき地域飼料用米専用品種「ふくひびき」栽培研修会を開催

2月19日(水)

JA福島さくらいわき統括センターにおいて、いわき地域飼料用米専用品種「ふくひびき」栽培研修会を開催しました。

研修会では、当所より「ふくひびき」の多収に向けた栽培方法について説明しました。また、いわき管内で「ふくひびき」の多収栽培を実現している坂本和徳氏と箱崎寿正氏に、優良事例として、栽培する上での留意点や収量向上のために取り組んでいること、飼料用米に取り組む理由等について説明いただきました。

併せて、本庁水田畑作課の松本主任主査より、需要に応じた米生産や、米をめぐる情勢、令和7年産の主な作物における県での重点的な取組について説明しました。

当所では、引き続き、需要に応じた米生産の推進と「ふくひびき」の多収に向けた技術支援に取り組んでまいります。



▲ 優良事例生産者(左:坂本氏、右:箱崎氏)

(農業振興普及部)

Topic

「ふくしま復興・檜葉町さつまいもプロジェクト」高校生らが知事に商品開発報告

本誌でも苗植え会や収穫会の様子をお伝えしていた「ふくしま復興・檜葉町さつまいもプロジェクト」において、浜通りの高校生と株式会社マルトが開発した商品が完成！2月19日に、知事へその報告を行いました。

檜葉町のさつまいもを使った商品開発に取り組んだのは磐城桜が丘高校、平商業高校、小名浜海星高校、磐城農業高校、ふたば未来学園高校の5校。さらに今年はいわき市をホームタウンとするサッカークラブのいわきFCも参画し、計18種の商品を開発しました。開発商品を試食した知事はその取組に感心し、高校生たちへ激励の言葉を贈りました。

年々活動がパワーアップし、檜葉町のさつまいもを盛り上げているこのプロジェクト。今後も更なる活動に期待しています。



▲ 内堀知事と記念撮影

(企画部)

いわき農業普及推進懇談会を開催

2月20日(木)

県いわき合同庁舎において、第2回いわき農業普及推進懇談会を開催しました。懇談会では普及指導活動実績について、ひとづくり、ものづくり、地域づくりの3つの視点ごとに普及活動の報告を行い、委員から助言をいただきました。

また、今年度重点的に取り組んだ、夏季高温条件下での「福笑い」の品質向上対策、産地のブランド力強化を目指した「いわき・ねぎならではプラン」、中山間地域の活性化・交流人口創出を目指して取り組んだ「いなかといいなか」農村関係人口創出事業、特定外来種である雑草ナガエツルノゲイトウの情報提供を行いました。今回いただいたご意見や助言等を踏まえ、令和7年度の普及指導計画を作成し、より効果的な活動に取り組んでまいります。



▲ 懇談会の様子

(農業振興普及部)

いわき地域農業技術革新推進協議会を開催

3月3日(月)

県いわき合同庁舎において、第2回いわき地域農業技術革新推進協議会を開催しました。

本協議会は、いわき管内でのスマート農業技術の推進とスマート農業技術に関する実証の効果的な運営支援を行い、その成果等を共有し先進技術の普及を図ることを目的としています。

会議には、構成員のいわき市、全農福島郡山地区担当、JA福島さくらいわき統括センターが出席し、県のスマート農業の導入状況や、なしジョイントV字トレリス栽培の実証ほの成果、令和7年度実施予定のグリーンな栽培体系加速化事業の取組、そしてGPS活用によるスマート農業加速化推進事業によるスマート機器の導入状況などについて情報を共有しました。



▲ 会議の様子

当所では、引き続き、スマート農業技術等の導入、普及に向けた支援に取り組んでまいります。

(農業振興普及部)

福島県園芸振興プロジェクトいわき地方園芸振興推進会議を開催

3月3日(月)

県では、農業の成長産業化を推進するため、収益性の高い園芸品目10品目を選定して「生産力の強化」「競争力の強化」を課題解決の取組視点として掲げた園芸振興プロジェクトを進めています。いわき地方では「日本なし」「トマト」「りんどう」「トルコギキョウ」の4品目のプロジェクトに取り組んでいます。

会議には、構成員のいわき市、全農、JA、農林事務所が出席し、プロジェクト品目に加えて、いわき地方の重点品目である「いちご」「ねぎ」の令和6年度実績と令和7年度計画について意見を交わしました。また、普及指導員による調査研究の実績、園芸品目生産に取り組む新規就農者等の情報、みどり認定等の情報を共有しました。



▲ 会議の様子

当所では、引き続きこれらの品目を中心に、園芸振興を強化してまいります。

(農業振興普及部)

いわき地方地域計画及び農地中間管理事業推進調整会議を開催 3月3日(月)

県いわき合同庁舎において、第3回いわき地方地域計画及び農地中間管理事業推進調整会議を開催しました。会議では、構成員であるいわき市、市農業委員会、JA福島さくらいわき統括センター、福島県農業振興公社、各土地改良区とともに、管内の地域計画の策定や基盤整備等に関する中間管理事業の推進状況について報告し、今後の推進方針について協議しました。

いわき市内では、市の計画どおり129地区で地域計画の策定が完了しましたが、今後は各地区の計画の実現やブラッシュアップが求められます。

当所では引き続き、地域計画の取組を支援してまいります。

(農業振興普及部)



▲ 会議の様子

「いわき・ねぎならではプラン」産地 WG を開催

3月4日(火)

県いわき合同庁舎において「いわき・ねぎならではプラン」産地ワーキンググループを開催しました。

県では、令和6年から8年にかけて、いわきねぎの生産拡大、収益性や認知度向上により、ブランド力の強化を目指していくこととして、市やJAと連携して「いわき・ねぎならではプラン」を策定し、プランに沿って活動しています。

第2回産地ワーキンググループでは、品種比較試験や首都圏でのマーケティング調査などの取り組み結果について共有し、次年度の活動計画について協議しました。

当所では、いわきねぎの生産振興とブランド力の向上に取り組んでまいります。

(農業振興普及部)



▲ WG の様子

いわき七浜おさかなフェスティバル

3月9日(日)

アクアマリンパークにて、いわき市が主催する「いわき七浜おさかなフェスティバル」が開催されました。会場では「常磐もの」のアンコウ鍋のふるまいや、さんまつみれ汁、しらす丼、アンコウの唐揚げなど「常磐もの」を活用した料理の販売、アンコウの吊るし切りや模擬セリ体験などが行われました。

水産事務所及び水産海洋研究センターもブース出展し、タコかごやはもどう、さし網などの漁具の展示と、鮮魚タッチプール等を実施しました。特に鮮魚タッチプールは子供達に大好評で、イベント中は客足が途絶えないほどの盛況ぶりでした。



▲ 参加者で賑わう鮮魚タッチプール

(水産事務所)

いわき市森林組合林業コンクール表彰式

3月17日(月)

いわき市鹿島町パレスいわやにおいて、いわき市森林組合の第55回通常総代会が開催され、併せて、森林組合が主催する林業コンクール入賞者の表彰が行われました。

このコンクールは、自ら林業経営を行っている森林組合員の林業技術の向上と、林業経営の改善を図ることを目的として毎年開催されています。

今回のコンクールには、間伐技術部門で3名の参加者があり、当所森林林業部からも審査員を派遣し現地審査を行ったところ、以下の皆さまが入賞されました。

当日の表彰式では、入賞者へいわき市長、いわき農林事務所長、いわき市森林組合代表理事組合長から賞状が授与されました。

今回入賞された皆さま、誠におめでとうございます。今後の益々のご活躍を祈念いたします。

(森林林業部)

【入賞者一覧】

- いわき市長賞
藁谷 満雄 (三和町)
- 福島県いわき農林事務所長賞
中寺区 区長 鈴木 孝 (三和町)
- いわき市森林組合長賞
草野 孝己 (三和町)



▲ 中寺区 鈴木区長への賞状授与

令和7年度いわき地方防霜対策本部を設置

3月24日(月)

春先に発生する遅霜への対策のために、いわき地方防霜対策本部を設置しました。(設置期間：令和7年3月24日～5月31日)

設置に先立ち、県いわき合同庁舎において管内の関係機関・団体を参集し、いわき地方農業災害対策会議を開催しました。会議では、令和6年度の農業気象災害の発生状況や令和7年度における災害発生時の体制のほか、日本なしの生育状況などを確認しました。

今年の日本なしの生育は、3月26日に「豊水」の発芽が確認されるなど、平年より1日程度生育が進んでいますので、昨年同様に3月下旬以降の遅霜による被害に警戒する必要があります。

霜注意報の発令時には、注意報の速やかな伝達、降霜の有無や農作物への被害状況を確認するとともに、被害発生時には適切な技術対策を講じてまいります。

今年度も農業災害のない1年を祈るとともに、農業災害発生時には皆さまのご協力を受けながら、迅速な対応を進めてまいります。

(農業振興普及部)



▲ いわき地方防霜対策本部 看板設置
(左：上野所長、右：志賀部長)

職員発! Iwakiならではカレーをつくろう

昨年度、地元農産物の魅力を発信するため、市内の高校生と飲食店等が共同でいわきならではのグルメを開発した「高校生発! Iwaki ならではグルメをつくろう」。それとはまったく関係ありませんが、職員が趣味で作ったいわきならではのカレーをご紹介します。できるだけいわき産食材でつくろ。 (企画部)

めひかりカレー



いわきと言えば、いわき市の魚「めひかり」。魚と言えば南インド料理。というわけで、南インド風(?)のカレーにしました。野性味あふれる見た目が本場っぽいかも。

トマトやヨーグルト、フェネルを使った爽やかなカレーに、めひかりの脂の旨みがよく合います。じゅうねんはマスタードシードの代用として、食感や見た目に寄与していると思います。美味しくできました。

<使用したいわき産食材>
めひかり、中玉トマト、玉ねぎ、長ねぎ、にんにく、唐辛子、じゅうねん(エゴマ)、ヨーグルト(いわき製造)

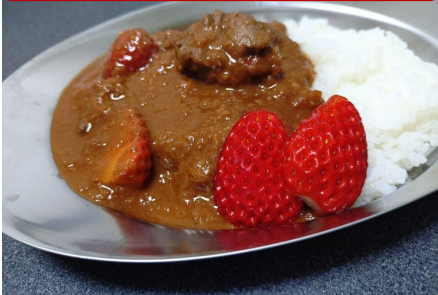
材料(2人分)

- | | |
|--------------|-------------|
| めひかり…… 6尾 | ホールスパイス |
| 中玉トマト… 1個 | クミン………小さじ1 |
| 玉ねぎ……… 1個 | フェネル……小さじ1 |
| 長ねぎ……… 1/2本 | じゅうねん…小さじ1 |
| にんにく…… 1片 | パウダースパイス |
| しょうが…… 1片 | クミン………大さじ1 |
| ヨーグルト… 大さじ1 | コリアンダー…大さじ1 |
| 唐辛子……… 1/2本 | ターメリック…小さじ2 |
| 塩………小さじ1と1/2 | |
| 水………200ml | |
| サラダ油…… 大さじ1 | |

作り方

1. フライパンにサラダ油、ホールスパイスを入れて香りが出るまで熱した後、みじん切りにしたにんにく、しょうが、唐辛子を加え炒める。
2. 薄切りにした玉ねぎ、白髪ネギにした長ねぎを加え、飴色になるまで炒める。
3. さいの目に切った中玉トマトを加え、形がなくなるまで煮詰めた後、塩とパウダースパイスを加え、混ぜながら軽く炒める。
4. 水とヨーグルトを加えて煮立たせた後、頭と内臓を除いためひかりを加え、塩で味を調整しながら10分程度煮れば完成。

いちごカレー



旬のいわきいちごを使って、インドというより欧風カレーを目指してみました。正直チャレンジ枠でしたが、普通にあります。いちごがカレーに酸味とほのかに甘い香りを与えていて、ビーフシチューに近い味わいになっています。

調理途中で、いちごと玉ねぎのジャムになったときはどうなることかと思いましたが、やってみる価値はありますよ。多分。

<使用したいわき産食材>
いちご(ふくはる香)、玉ねぎ、にんにく

材料(2人分)

- | | |
|---------------|--------------|
| いちご(小) …… 16個 | ホールスパイス |
| 牛肉(カレー用)… 80g | フェヌグリーク…小さじ1 |
| 玉ねぎ……… 1個 | パウダースパイス |
| にんにく……… 1片 | クミン………大さじ1 |
| しょうが……… 1片 | コリアンダー…大さじ1 |
| コンソメ……… 1個 | ガラムマサラ…小さじ2 |
| 塩………小さじ1と1/2 | パプリカ………小さじ1 |
| 水………200ml | |
| サラダ油……… 大さじ1 | |

作り方

1. フライパンにサラダ油、ホールスパイスを入れて香りが出るまで熱した後、みじん切りにした玉ねぎを加え、飴色になるまで炒める。
2. すりおろしたにんにく、しょうがを水(分量外)と共に加え、水分が少なくなるまで煮る。
3. 適当な大きさに切ったいちご12個を加え、形がなくなるまで煮詰めた後、塩とパウダースパイスを加え、混ぜながら軽く炒める。
4. 牛肉を加え、表面の色が変わる程度まで炒めた後、水とコンソメ、半分に切ったいちご4個を加え、塩で味を調整しながら10分程度煮れば完成。

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果(令和7年2月分)

□ 農林畜産物の検査結果

令和7年2月の農林畜産物モニタリングでは、4品目12検体を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。内訳は(表1)のとおりです。(企画部)

(表1) 品目と検体数

ニンジン1、シュンギク(施設)1、牛肉9、原乳1

□ 海産魚介類の検査結果

令和7年2月の水産物モニタリングでは、119検体の海産魚介類を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。(水産事務所)

いわき地方の出荷制限等品目

令和7年2月末現在、いわき地方の農林畜産物のうち、出荷制限等の対象となっている品目は(表2)のとおりです。出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値(100Bq/kg)以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。(企画部)

(表2) 農林畜産物の出荷制限等品目(令和7年2月末日現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る)、わらび(野生のものに限る) ^{※1} 、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ ^{※2}
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

※1 わらび(栽培)で出荷・販売できるものは、安全性が確認されたほ場で生産されたものに限ります。(市内該当生産者20名のみ)

※2 野生きのこは、摂取も制限されています。

注意!

山菜等の出荷制限について

山菜が発生する時期を迎えましたが、いわき市においては、山菜の一部が出荷制限等の対象となっていますので、採取者や直売所担当者の皆さまにおかれましては、次の点に留意するようお願いします。

1 出荷制限について

現在、いわき市産の山菜のうち、出荷が制限等されている品目は上記(表2)のとおりです。これらの品目は地域全体として安全性が確認されていないことから、出荷制限等は今シーズンも継続しています。

そのため、

- 団体や個人における自主検査により基準値(100Bq/kg)以下であっても出荷や販売等はできません。
- 無償の譲渡や、インターネット(フリマアプリ等)による個人売買も出荷に該当するため、できません。
- 出荷・販売だけでなく、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料としても使用できません。

なお、出荷制限等品目は市町村ごとに定められていますので、他の市町村の状況は県HP「ふくしま復興情報ポータルサイト」(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/mon-kekka.html>)で確認してください。

2 出荷制限等品目以外の山菜について

県において緊急時環境放射線モニタリング検査を実施しており、今シーズンのモニタリング検査結果を確認のうえ出荷・販売するようお願いします。モニタリング検査の結果は、新聞や県ホームページ「ふくしま復興情報ポータルサイト」で公表されます。(森林林業部)



Topic

「いわきハタチ酒プロジェクト・第7期」新酒ができました！ ～二十歳の年の、米作りから酒造り体験～

米作りから酒造りを体験して、完成したお酒を飲みながら20歳や新社会人としての年をお祝いする「いわきハタチ酒プロジェクト」。7期生7名が、酒米作りから酒造りまでを手掛けた新酒が発売となりました。

【新酒贈呈式・懇親会】

3月2日(日)、「いわき新舞子ハイツ」にて今期の締めイベントとなる新酒贈呈式・懇親会を開催。7期生に完成した新酒を贈呈した後、美味しい料理を肴に新酒を楽しみました。7期生からは「とにかく参加して楽しかった」「初めての日本酒づくりに感動した」など嬉しい言葉をいただきました。



▲ 7期生4名と実行委員会代表永山氏(写真右)

【これまでで最高の出来かも。新酒発売】

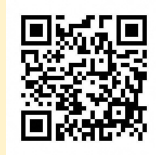
「ハタチ酒・おりがらみ」は以下の実行委員会酒販店で販売中(720ml 1,760円/1,800ml 3,410円)。

- ・あわのや酒店(平大工町・Tel0246-22-3311) ・澤木屋(平中町・Tel0246-21-5200)
- ・タイハイ酒店(常磐下湯長谷・Tel0246-43-2077)

今年の新酒は、シャープなキレが最初に感じられ、その後にくらみのある味わいが残ります。濃厚旨口と言われる福島の酒と飲み比べると、その味わいが一層はっきりします。ぜひ、お好みのお酒と飲み比べてみてください。(企画部)

【8期活動の参加者募集、開始！】

今年5月頃から始まる「第8期活動」の参加者を募集しています。詳しくはハタチ酒のFacebook (<https://www.facebook.com/iwaki20sake/>)をご覧ください。参加申込は専用フォーム(右の二次元コード)からも受付中です。たくさんのご応募をお待ちしています。

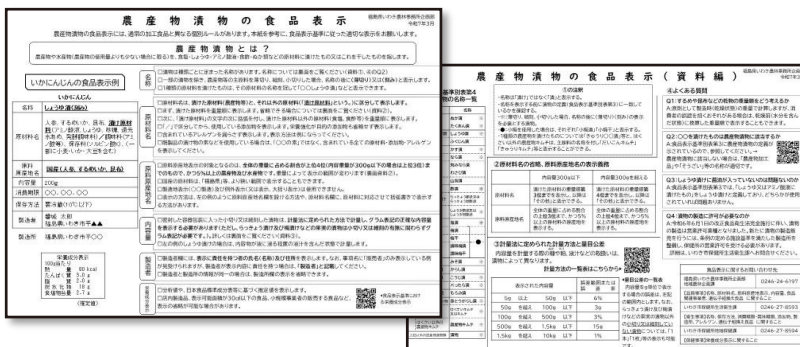


▲ 申込専用フォーム

農産物漬物の食品表示啓発チラシを作成しました！

漬物の食品表示にあたって必要な知識をコンパクトにまとめた啓発チラシを作成しました。個別ルールを表示事項ごとに解説したほか、漬物の名称や原料原産地の表示義務、計量法に基づく内容量の表示方法等について、参考資料を充実させました。ぜひ、表示作成にお役立てください。

その他、食品の表示についてご不明点がありましたら、当所企画部(0246-24-6197)までお気軽にお問い合わせください。



▲ ダウンロードはこちらから

食品表示に関する参考資料：<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/syokuhyo-siryou.html>

(企画部)

退職者・転出者一覧

令和7年3月をもって退職または転出する職員は以下のとおりです。新天地での活躍をお祈りします。

< 農林事務所 >

	職名	氏名
総務部	次長兼総務部長	鵜沼有彦
	主査	渡辺弘俊
	主事	堀川翔太
企画部	部長	大槻晃太
	地域農林企画課長	増子智子
	副主査	若月祐太郎
	主事	阿部光樹
農業振興普及部	部長	志賀忠市
	副部長	岸正広
	主事	永井加奈
	技師	木村菜子
	副主査	飯尾友和子
農村整備部	副主査	鈴木智偉
	技師	高橋亮祐
	技師	今泉友希
森林林業部	技師	高宮愛
	主任主査	小林春男
	副主査	寺崎史也
	専門員	金子昌弘

< 水産事務所 >

	職名	氏名
総務課	主事	佐藤智広
	主事	佐久間葵
漁業振興課	主事	伊東亮太
	主査(相馬市駐在)	佐藤利幸
	主査(いわき市駐在)	小塚智也
	主査(いわき市駐在)	佐々木和幸

< 水産海洋研究センター >

	職名	氏名
所長		平田豊彦
事務局	主事	齋藤裕一郎
海洋漁業部	主任研究員	寺本航
放射能研究部	副主任研究員	渡部翔
調査指導船 いわき丸	主査	佐藤笑子
	技師	鈴木柊祐
	技師	穴戸竣哉

こだわりと美味しさがつまった
いわき自慢の6次化商品をご紹介します

パパイヤといえば南国の果物のイメージですが、いわきでも栽培している農家さんがいます！今回は、四倉町で青パパイヤを育てる佐久間さん(麦わらファーム)が開発した「パパイヤティー」を紹介します。

「パパイヤティー」はパパイヤの葉と玄米をブレンドした茶葉で、皮膚の治療薬にも使用されるパパイン酵素や抗酸化作用を持つポリフェノール等が含まれています。葉は本来苦みが強いのですが、焙煎することで、飲みやすく仕上げました。美味しさにこだわることで、パパイヤが健康に良いことを広く伝えたいという思いが込められています。

脱サラして一から青パパイヤ栽培を始めた佐久間さん。今後は地元への貢献を更に意識し、新商品の開発や、販路拡大により一層力を入れるとのこと。将来いわきを代表する食材になるかもしれない青パパイヤに今後ともご注目ください。



パパイヤティー

1袋(7包入) 900円(税込)

取扱店舗

田舎んぼ・四倉郵便局・山田小湊郵便局

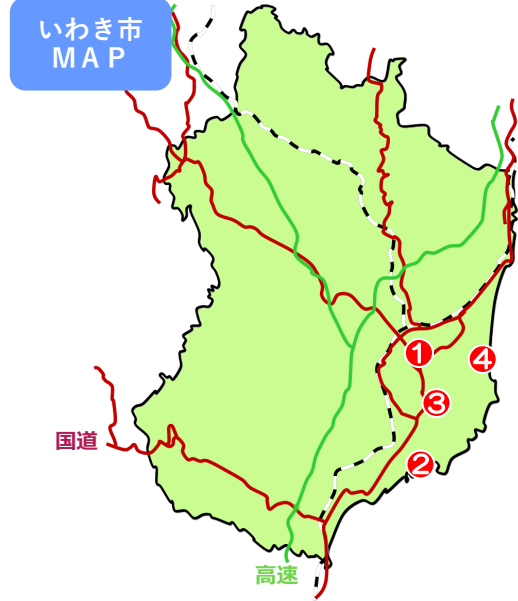
麦わらファーム
佐久間 英行さん

販売元・お問い合わせ

麦わらファーム ☎080-5227-4367

今月号に掲載した場所はこちら！

- ① JA福島さくらいわき統括センター (p.3)
自由ヶ丘39-2
- ② アクアマリンパーク (p.5)
小名浜辰巳町地内
- ③ パレスいわや (p.6)
鹿島町久保字梅田4-1
- ④ いわき新舞子ハイツ (p.9)
平下高久南谷地16-4



【農家研修を受講しました】※表紙の写真について

農業振興普及部の新採用職員です。採用1年目職員の研修として、(株)坂本農園(いわき市山田町)にて、農産物の栽培や出荷、経営について学びました。

研修を行った2月はちょうど人参収穫期の真っ最中！小型トラクターで人参の周りの土を柔らかくした後、手で葉っぱを持って引き抜きます。トラクターをかけた後は簡単にスポッと抜けるので、驚きました。人参の収穫は初めてだったので、とても勉強になりました。今回の経験を、今後の普及活動に活かしていきたいと思います！

(農業振興普及部)



あとがき

年度末ということで、怒濤の会議ラッシュ！写真の見栄えがしませんし、ほとんど県いわき合同庁舎での開催なので、上記の地図がさみしいことになっていますが、いわきの農林水産業のための大事な会議なのでご容赦ください。

そして、年度最終号は自由な枠があると聞いた(?)のでカレーを作りました。誰かいわきでスパイスを作ってくると嬉しいです。

次号からは編集担当が変わりますが、今後ともニュースをよろしくお願いいたします。(担当Y・W)

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース